

自分たちでつくる「回覧板」。

富水地区、地域循環型自主財源への取り組み（前編）

いま富水の自治会で、地区の回覧板を自分たちで作り、そこに地元のお店や企業等の広告を載せ、広告協賛金は回覧板の制作費と残りは自治会活動費の一部にあてるといふ、先進的な取り組みがスタートする。発案者は小田原市自治会総連合の木村秀昭会長、回覧板制作を「おとなりさん」編集部で担当することになった。

ことの経緯はこうだ。自治会総連合にはもともと行政から*補助金が出ている。しかし、それだけで維持していることは難しく、加えて現在の人口減少の流れの中で、「行政の財源も厳しくなる可能性もあり、頼みの補助金も維持、継続の保証はない。であれば今

*「補助金」と聞くと高額を想像される方もいるかと思うが、現在人口1万4000人超えの住民をかかえる富水地区で年間約30万円ほど。これだけ多くの人々が暮らす地域の安全や環境を支える日々の活動に加え、様々な行事、また任意団体とはいえ、広報や会計など、運営上必要なこと等も多々あり、補助金だけでまかなうのは易しくないのが現状だ。

のうちから少しでも自治会で自主財源をつくれないうかが、木村会長の考えだ。そこで思いついたのが、この「自分たちでつくる回覧板」で、まずは自分の暮らす富水地区で出来ないか、実態を調べはじめた。

すると、調べてすぐに仕組みがわかった。いわゆるフリーペーパーと同じビジネスモデルで、今まで使っていた水色の回覧板は、市外の業者が市内外問わず広告営業をして広告費を稼いでつくった回覧板を、各自治会長の玄関に置いていたものだったのだ。もちろん回覧板制作費以外は業者の儲けになる。ということ、同じことを自分たちでやれば自治会の自主財源になる。

そこで、これまで富水地区の回覧板をつくっていた業者に連絡をし、次から自分たちでつくった回覧板を使うから、もう富水地区で営業をかけないようにと通告をした。

自治会では地域の企業にのみ声をか



け、広告スポンサーを募った。そうすれば、企業の広告費は地域のために、地域の人々は活動に賛同してくれる地域に親近感をおぼえ、日常生活の中でお客さんとしてその企業を使うようになるという循環が生まれる。

「初めての試みなので色々反省点もあるが、富水がモデルケースになり、この経験を今度は他の自治会が役に立ててくれればいいと思う」という木村会長を見ていると、こうした地域循環型経済というのは、実は古くからのネットワークを地域にもつ「自治会だからこそ」できることなのだと気づいた。現在、地域のスポンサー企業も順調に集まり、8月中には完成する予定だ。



木村秀昭 会長
(富水地区自治会連合)

「回覧板を自主財源にしたい」、又は、詳細を知りたいという自治会は、編集部までご相談ください。

おとなりさん編集部 ☎0465・20・77
45 (デザインこねこ株式会社)、又は、小田原市地域政策課 ☎0465・33・1457

「小田原」を詠む。

第二回 おとなりさん

小田原川柳大賞

ぴ切り 9月末日



テーマ

「小田原にまつわる言葉を入れてください。」

賞品

おとなりさん編集部選

大賞 (二作品) 賞金 一万円

副賞 丸う田代「竹の花」



柳家三三選・柳月美智子選

優秀賞 (二作品) 加藤兵太郎商店

「いいちみそ 詰合せ」



(200名×6種)

平井書店選

平井書店賞 (二作品) 図書カード

5000円分

審査員

柳家三三 (落語家)

柳月美智子 (小説家)

平井義人 (平井書店代表)

おとなりさん編集部



柳家三三



柳月美智子



平井義人

